

教 育 研 究 業 績 書		
2010年 3月31日		
氏 名 中 里 弘 印		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
臨床心理学	心理療法、自我発達、グループ・アプローチ 教育分析、スーパーバイズ	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
ケース・カンファレンス	2006年～2009年	院生の教育として、ケース・カンファレンスで深く、高度な教育をしている。2008年までは、責任者として直接指導。
幼稚園実習	2008年秋	幼稚園での院生の保育実習指導。責任者として直接指導。
児童施設実習	2007年～2008年	院生の実習指導。責任者として直接指導。
不登校児合宿	2006年～2009年	院生をスタッフとして不登校児合宿をし、院生を指導。責任者として直接指導。
不登校児フリースペース	2006年～2010年	不登校児たちのフリースペースを開き、そこでは、院生がスタッフとして参加している。不登校児たちの就学指導と同時に院生に不登校児との接し方を指導。
2 作成した教科書、教材		
Pharmaceutical Communication	2007年4月20日	南山堂 薬剤師教育のための患者さんとのコミュニケーションの持ち方の教科書。
3 教育上の能力に関する大学等の評価	2005年4月～ 現在	学生に講義式授業だけでなく、演習・実習等に直接指導できる技術と統合力を持っている。 臨床心理士認定協会の指導による、院生の臨床研修指導。
4 実務の経験を有する者についての特記事項	2005年4月以前～ 現在	臨床心理士資格認定協会に認定された研修会を2つ主催し、現職の臨床心理士および、臨床心理士を目指す院生の臨床指導をしている。
5 その他		
特になし		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格, 免許 臨床心理士 No. 02315	1990年3月31日	文部省の指導により作られたもので、カウンセリングや心的援助や心理査定を業務とする心の専門家の資格です。
2 特許等 特になし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 日本心理臨床学会第26回大会	2007年9月29日	不登校児の母を長期間面接することで、母親の心の中に形成できなかった自分の母親像を良質の良い母親イメージを心の中に再形成する過程を発表したが、これらの技術は、大学での授業の中で重要なものとして、教育できる教材としても使用している。
4 その他 特になし		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 ファーマシューティカルコミュニケーション基礎編	共著	2005年4月	南山堂	小川芳子・後藤恵子・有田編。 執筆分：1-2 自己イメージを探る (pp. 18～23) 薬剤師さんの患者さんとのコミュニケーションに必要な基礎知識を書いたものである。内省することで自己イメージを確認することの大切さを知ろうとするものである。自分で自分の評価をそれなりに高く評価できることは、自信につながることを考えられる大切なことである。自己評価には①自尊心②優越感③自己受容と自己不信④自己の積極的行動や引っ込み思案などの行動特性としてみられる。 1-4 対人態度を知る (pp. 38～51) 対人への態度を知ることも大切である。対人への態度は対象の印象形成に多く左右されるところがある。対人認知のバランス理論を知っておくことも良いでしょう。ハイダーのバランス理論は、Aさんと仲良くしたい時は、Aさんと同じような行動をすることで、維持されやすいものである。対人関係のレベルは、①気づきの段階②表面的接触と関係の構築の段階③相互関係・持続の段階④崩壊の段階⑤終了の段階へと続く。
2 Pharmaceutical Communication	共著	2007年4月	南山堂	小川芳子・後藤恵子 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会編集。 1-2 自己イメージを探る (pp. 18～23)、1-4 対人態度を知る (pp. 38～51) 上記著書「ファーマシューティカルコミュニケーション基礎編」の編集に不都合がありましたので、再出版となりました。しかし、中里が執筆した部分は変わりません。
(学術論文) 1 限りなく境界なく	単著	2007年3月	常磐大学心理臨床センター紀要1号 pp. 43～57	境界性人格障害者の近似者の心理について書いたものである。近頃、変わった人が増加して、社会で話題になっている。これらの中に、境界性人格障害者の人格および行動が近似の者がいる。それらの特徴を一つ一つ取り上げ、その説明をした。一つの例として、結婚できない女性を示した。結婚をすることで自分の氏が変わることで、自己の同一性が崩壊する恐怖を感じてしまい、結婚できないというものである。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2 人間の心の出会いは別離の後に始まる	単著	2008年3月	常磐大学心理臨床センター紀要2号 pp. 3～13	人間関係は個人と個人とが出会うことで形成されていくものと考えている方が多いようである。しかし著者は、個人と個人との出会いから人間関係の形成が始まるというよりもまず、人間は出産により別離がなされて初めて出会いの始まりが出来るのではないかと考えている。この他人との別離（死）がきちんと出来ることによって、出会い（再生）もきちんと出来るようになるのであり、別離が出来ない者には出会いも出来ないのであろうと考える。
3 対象不安児（者）の心理と家族関係（前編）	単著	2009年3月	常磐大学心理臨床センター紀要3号 pp. 3～38	対象不安児（者）という名称の提案とその心理・家族関係の特徴を示した。不登校、閉じこもり、無気力、自傷や自殺等の者達は不安を自覚できないことが大きな特徴であるとし、不安を体験できない者達を対象不安児と名称化する事の必要性、及びこの不安の巨大さ・その不安が様々な症状を作り出していることを示した。そして、家族のあり方がいくつかに分類出来ることも示した。
4 対象不安児（者）の心理と家族関係（後編） —家族力動、家族病理—	単著	2010年3月	常磐大学心理臨床センター紀要4号 pp. 1～26	対象不安児の家族力動と家族病理のまとめたのである。この中には父親の心理として①自己中心性と依存性②内的不安と現実否認③自分のなさ仕事人間④共感性不全母親の心理として①巨大な不安と破壊性②殺伐とした心の世界③死の不安と生の不安④みすてられ不安とみすて返し⑤対人恐怖と人づかれ⑥他者支配と不安軽減⑦意思を持つことの不安と欲求を持つことの恐怖⑧幸せになる恐怖⑨内的破壊性⑩自我同一性の障害⑪現実否認と自発性のなさ⑫共生関係⑬自己を対象化できない等の家族内病理を記述した。
(その他) 1 幽霊が生きている家	単著	2005年11月	第16回日本大学薬学部学術講演会	既に死亡して、家の中にいなくなっている者に依存するしか生き方を見いだせない家族成員(全員30才以上)が、死亡した母の部屋を生きていた時のままにして、母にケアをしてもらったように生活をしようと努めるなど、不自然で無理な生活を送ろうとするため、一族の全員に数々の精神障害が顕在化するのであった。
2 ユング派の教育分析とスーパーヴィジョン	単著	2005年11月	第16回日本大学薬学部学術講演会	ユング派の分析家としては河合隼雄氏が有名である。河合氏のように5年間程スイスで教育を受ける方法とは異なる教育を受けるスタイルもある。チューリーヒに行き、ユング派の分析家による教育分析を始めた。自分の心の中を語ることで、ユング派的心の理解を体得するためである。スーパーヴィジョンは、ユング派分析家の症例理解方法の手解きを受けたものである。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3 不登校児の母親面接 —良い母イメージの形成について	単著	2007年9月	日本心理臨床学会第26回大会	<p>不登校児の母との10年間に渡る心理面接では、不登校の最大の要因と考えられている母親自身が実母との間に安心した精神・情緒的交流が成立できずにいた。実母への思いは良いものではなくつらい体験であったが、母としてはその思いを意識化せず実体験のない良い母親像を創り上げることで安心を得ようとしてきた。偽の体験、偽の母親像を抱き、実感ある意識は死に瀕していたのである。</p>
4 不登校児の合宿 集団活動の影響と不登校児の成長について	共著	2009年9月	日本心理臨床学会第28回大会	<p>矢田晴之・松坂利之・松田真由子・中西佳恵・飯塚祥子・<u>中里弘</u></p> <p>毎年のように開催している不登校児の合宿についての報告である。</p> <p>合宿をし、心理療法的な支援を続けていくことで人間関係を構築し、多くの人々の中で、気持よく交流して、そして、そこでの作業を続けること特にロッククライミングを試みることで成功体験が多くの劣等感覚を克服することにつながり、新しい自己像形成をうながしていくことができ、他者との同一視をするなど新しい自我成長がみられたことの報告である。</p>